

7 支援金の効果的な活用により継続的に事業展開している事例の紹介

フォローアップ調査の対象団体を中心に、過去に「地域発 元気づくり支援金」を活用し、その後も発展的に事業を継続されている団体の皆様から、最近の活動内容や今後の事業展望等についてお伺いしました。地域づくり活動の参考となるような取組を、各地域からご報告いただいています。

地域振興局	タイトル	団体名	掲載ページ
佐久	岩村田商店街が取り組む新たなこどもの居場所づくり事業	岩村田本町商店街振興組合（佐久市）	111
上田	音楽レクリエーションを活用した高齢者の社会参加、居場所作り（アクティブシニア社会参加支援事業）	NPO法人 健康サポートまごの手（上田市）	112
諏訪	多世代地域交流スペースを拠点とした地域の居場所作り	株式会社和が家（岡谷市）	113
上伊那	社員も会社も地域も「健幸」になる！健康経営トライアル事業	伊那商工会議所（伊那市）	114
南信州	多世代交流型こどもカフェ事業	特定非営利活動法人Hug（松川町）	115
木曾	木曾の観光地域づくり（東山公園環境整備事業）	三留野地域振興協議会（南木曾町）	116
松本	安曇野産ホップ生産と麦芽栽培による遊休荒廃農地活用事業	安曇野産ホップを生産する会（安曇野市）	117
北アルプス	「花ごはん」で楽しむ白馬Alps花三昧（2018～2020）	白馬Women's Club（白馬村）	118
長野	箱膳を活用した食育推進事業（和食伝承事業）	信州ひらがな料理普及隊（長野市）	119
長野	日本遺産 姨捨の棚田と都市との農業交流	名勝姨捨棚田倶楽部（千曲市）	120
北信	信越自然郷エリア“ふるさとサイクリング”推進プロジェクト	信州いいやま観光局（飯山市）	121

岩村田商店街が取り組む新たなこどもの居場所づくり事業 (岩村田本町商店街振興組合)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

平成 8 年に出発した、当組合は、疲弊した商店街の活性化のために日本一イベントや空き店舗対策、若手起業家育成事業などさまざまな事業を展開。それらの活動の過程で地域住民からのアンケート要望をもとに「子育て支援事業」を平成 18 年から開始。年間 13 から 15 のイベントを実施しながら、地域が求める事業として学習支援の「岩村田寺子屋塾」、育児支援の「子育てお助け村」を開設してきた。

地域の子育てに関わる様々な、行政、団体との連携しながらの「地域を挙げての子育て支援」を実現することで、「住みやすい、暮らしやすい街」を実現したい。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H29	東北や熊本への復興支援のイベントの開催を、高校生のプロデュース等により実施することで気運を盛り上げるとともに、地域の賑わいを創出した。	1,976 千円
H30	商店街を活用した「食の支援」、「親への支援」、「学ぶ楽しみ」を目的として、子どもが食事をつくる「子どもの食堂」、親を対象にしたカフェ、「学びの場」の講座などを開催し、商店街らしい「子どもの居場所づくり」の構築を目指した。	1,005 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

令和 3 年 10 月より「佐久・岩村田 子どもの居場所 おいでなん処」を開設。週 3 日の放課後支援事業を開始。

本事業はこれまで元気づくり支援金を長年活用させていただきながら構築してきた「子育て支援事業」の集大成として、長野県次世代サポート課、長野県みらい基金の伴走支援を得てのコミュニティモデル事業。本事業については、佐久市をはじめ地域の区長会、民生児童委員、近隣小学校との連携を実現しながらの事業。



【子どもの居場所オープニングセレモニー】

取組の効果

平成 18 年から取り組んできたことで、様々な団体や NPO 法人、子育て支援に関わっている方々、助産師、地域包括ケアセンターなど、いろいろな方が事業に関わっていただけたことは、地域コミュニティの担い手である「商店街」という組織ならではのメリットだと感じている。

それだからこそ、新たな事業やイベントを開催するにつけても、ことあるごとに関連団体にも連携を呼びかけて、実施するよう心掛けている。

ポイント

- 1、 イベントや事業ごとに、その方面での「プロ」の指導を受けたり、「プロ」に事業担当してもらおう。
- 2、 事業をきっかけに新たな団体との連携が生まれることで、事業に幅が広がることになった。
- 3、 若者を巻き込むこと、平成 23 年から始めた「高校生チャレンジショップ事業」を皮切りに「高校生が商店街で活躍する」ことを実践してきた。これからの街を担うのは「若者」その「若者」が「町に愛着を持つ」ことこそ、これからのまちづくりには必須。
(今般の「子どもの居場所」事業でも 30 名を超える高校生・大学生のボランティアが集まってくれた)

岩村田本町商店街振興組合（佐久市）
 連絡先 理事 細川 保英
 0267-54-8339 (岩村田寺子屋塾)
 terakoyajuku@iwamura.com
<https://www.iwamura.com/>

音楽レクリエーションを活用した高齢者の社会参加、居場所作り（アクティブシニア社会参加支援事業）

(NPO 法人 健康サポートまごの手)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

音楽と運動、レクリエーションを組み合わせた「音楽レクリエーション（音楽レク）」で、介護予防・健康増進サポーターの育成、高齢者の社会参加や居場所作り事業を推進。

高齢化が進み、包括ケアシステム構成が急がれる中、民間が支えられるサロンや公民館、介護施設での音楽レクで、アクティブシニア活躍の場を広げ、生きがいややりがいを持って社会参加が出来る「人生二毛作社会」作り。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H29	地域の支え合いの場となるサロンやふれあいの会でシニアリーダーが教科書として活用できる音楽レク用 DVD 付きテキストの製作	1,217 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

アクティブシニアの社会参加により、自治会への出前講座や交流会等を拡大していることで、講座だけでなく自治会活動への参加者増加にも繋がった。

コロナ禍で地域コミュニティが分断され、健康にも悪影響が出る中、一人でも活用できる DVD が役立っていることから、さらなる活用の広がりを目指している。現在は、アフターコロナに向けて新しい体操や健康づくりコンテンツ制作を研究する一方で、HP をウイズコロナに対応する内容に充実させ、非接触での音楽レク体験や DVD 活用の準備も進めている

今後は以下の活動に取り組む。

- ・リモートでの体操指導や DVD 第二弾の製作
- ・地域協議会や自治会と連携した講座開催の拡大
- ・「集いの場、通いの場」づくりとリーダー育成



【R3年3月常盤町婦人会出前講座】

取組の効果

DVD 付テキストを活用した出前講座や健康まつりなどの開催により、多くのシニアの方々が新しく社会参加してくれるようになった。少人数の自主サロンも立ち上がった。

自治会等のリーダーやキーマンの方々と手紙やラインで交流を続けていることが、仲間づくりやネットワーク作りに繋がっている。自治会等への提案はこのネットワークで得た情報をもとに先方のニーズに合わせた内容としている。提案は自治会をひとつひとつ丁寧に訪問してプログラムを説明していることが、開催内容の充実、参加者の満足、継続した開催を可能とするという好循環を生み、大きな成果となっている。

ポイント

自治会、地域協議会との連携しながら情報交換を継続することで、活動に有益な情報だけでなく、それらの団体からの協力を得ている。

上田市「魅力アップ事業」補助金により、活動継続の資金を確保するとともに活動内容を拡大している。内容を充実させることで、参加費をもらえるようになり、活動資金に余裕ができた。

積極的なメディア露出。取り上げてもらえるようデモを繰り返して活動内容をアピールしている。

団体名 NPO 法人 健康サポートまごの手(上田市)
メールアドレス magonote.ueda@gmail.com

多世代地域交流スペースを拠点とした地域の居場所作り (株式会社 和が家)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

私たちは、子どもも若者も、お母さんも、お父さんも、おじいちゃんも、おばあちゃんも誰もが自分にできることを行い小さなありがとうが循環する地域の居場所を目指しています。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H29	山下地区多世代地域交流実践事業 第1期目 「あんとリビング」完成	2,939 千円
H30	第2期目 「あんとキッチン」完成	4,352 千円
H31	第3期目 「あんとガーデン」完成	3,400 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

- ① 信州子どもカフェ あんとの配食の実施
- ② 無人販売 地域の方々が生産した野菜・お花の無人販売
- ③ 地域の方々に教えて頂いた古紙の袋の作成や手縫い雑巾の商品化
- ④ 駄菓子屋の出店
- ⑤ レンタルスペースとしての活用
- ⑥ あんとガーデンにてめだか飼育やひまわりや野菜作り
- ⑦ 近隣の保育園の展示会開催 等



【こどもの絵を楽しむお年寄り】

取組の効果

- ① ～④コロナウィルスの影響を受け直接的な関りをもつことは難しくなりましたが、中でも間接的なつながりをもてる方法を考え取り組んできた。お年寄りが役割の一つとしてお弁当を作ったり、地域の方が生産したお花を束ねて販売したり、一人暮らしの利用者のかたが無人販売の野菜を購入されたりと双方にとっての好循環が生まれている。駄菓子屋も株式会社和が家のみにとどまらず、近隣の商業施設の一角をお借りし多くの方々に周知して頂けてきていることを感じる。
- ⑤～⑦誰もが公園のように来れる仕組み作りの一つとしてめだかの飼育や、地域の方々と共にひまわりの種をまき成長を楽しんだりしている。近所のこどもがめだかに餌をやりを楽しむ姿や、地域住民が庭にひまわりを見に来たりする光景も増えてきている。又、近所の保育園に依頼しこどもたちの絵を展示。来ているお年寄りがその絵を見て楽しむことができ間接的な多世代交流が行われた。

ポイント

コロナウィルスの影響を受け思うように活動できない中ではありますが、毎月&HOSUE通信というニュースレターを地域住民と小学校に配布させて頂いています。設立から時間が経過すればするほど、あることが当たり前になってしまい地域住民の興味が薄くならないように常に小さな活動でもいいので継続して発信や動きを見せていくことの大切さを感じています。又、困っていることやできないことを外に開示し未完成であり続けることで出来る範囲で関わってくれる人を繋げていくことを意識しています。

団体名	株式会社和が家
	岡谷市山下町 1-1-22
連絡先	和が家日和 (0266-75-2708)
Facebook	岡谷&HOUSEにて検索

社員も会社も地域も「健幸」になる！健康経営トライアル事業 (伊那商工会議所)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

昭和 23 年に設立され、地域産業の発展、商工業の支援に取り組んでいる。
(事業の発案は、伊那商工会議所女子会プロジェクト。女性の意見やアイデアを活かし、地域の活性化や職場の発展につなげていくため、企業の女性社員などがメンバーとなって活動。)

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H30	企業における健康の大切さ周知と「健康経営」の仕組みづくりのため ・「健康経営優良法人認定」取得に向けたセミナー ・ウォーキングイベント ・業種別 3 分間ストレッチの考案 を実施	952 千円
R 元	前年の取組に引き続き ・「健康経営優良法人認定」取得に向けたセミナー ・ウォーキングイベント を実施	877 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

- **健康経営セミナー（年 1 回）**
従業員の健康あつての経営力向上ということを企業に意識してもらうために開催。
- **個別支援（通年）**
保険会社と連携し、具体的な健康経営への取組方法や「健康経営優良法人」取得に向けたサポートを、健康経営アドバイザーが個別に支援。

健康経営の浸透をさらに進めるために、認定取得企業への優遇措置設置の働きかけなど、行政と連携を図っていきたい。



【健康経営セミナーの様子】
(企業の事例発表)

取組の効果

- 「健康経営優良法人」の認定企業が、取組を始めた当初は 3 社だったが、現在は 21 社と年々増えており、健康経営に関心を持つ企業が増えてきている。
- ウォーキングイベントの際には、従業員の家族も含めた参加が多かったことから、企業→従業員→家庭へと、健康に対する意識の広がりも期待される。
- 「健康」について、個人の問題ではなく、企業として取り組むべきことの一つとしてとらえられるようになってきている。(味噌汁などの自販機を置いて、従業員の食事改善に取り組んだ企業もある。)

ポイント

- 「健康経営優良法人」の認定を受けた企業の取組を、セミナーや会報で紹介することで、メリットや健康経営の取組方法について、具体的なイメージがしやすくなるよう工夫。
- 「健康」は、一時的なものではなく、将来継続的に向き合っていくものなので、商工会議所としても、継続して企業への働きかけを行っている。

団体名	伊那商工会議所（伊那市）
連絡先	0265-72-7000
ホームページ	https://www.inacci.or.jp/

多世代交流型こどもカフェ事業 (特定非営利活動法人 Hug)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

当法人は、心の居場所や様々な支援を求める子ども達やその保護者に対して、学習支援や生活支援を併せ持つこども食堂事業の運営や、または高齢者を含む幅広い年齢層に対して、地域と共に関われるコミュニティスペースの提供及び各種イベントの企画を行い、子育てにおける安心・安全な場作りや、様々な背景を抱える子ども達の個別の支援、高齢者の居場所作りや主体的な社会参加、地産地消を目指した食事の提供など、地域の豊かなネットワーク作りに寄与することを目的として活動している。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

こどもカフェ（こども食堂）として、多世代の交流の場及び夕食や昼食の提供をすることで、利用者だけでなく、食材寄付や学習ボランティアとしての協力など、地域の幅広いネットワークの広がりが見られた。

活用年度	事業概要	支援金額
H29	こどもカフェの運営、備品の整備	565 千円
H30	こどもカフェの運営、備品の整備、チラシ作成	317 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

1、こどもカフェ（こども食堂）事業

毎週水曜日の夜に、居場所の提供とお弁当配布を行っている。松川高校ボランティア部の協力や、企業からの食材提供など、活動を継続することで、その輪が大きく広がっている。

コロナ禍ではあるが、細く長く続けていきたい。

2、多世代交流カフェ（昼間のランチ・喫茶の提供）事業

飲食店として登録をして運営している。乳幼児連れの子育て世代や地域の高齢者の利用など、多世代の居場所として機能している。社会福祉協議会や地域と連携したお弁当販売も拡大していきたい。

3、学習サポート事業

小学生を対象とした「宿題サポート」、中学生を対象とした「個別サポート」、学校に代わる多様な学びの場としての「フリースクール」の3つの柱で運営している。

4、その他イベント事業（季節のイベント、ワークショップ）



【こどもカフェでのお弁当配布】

取組の効果

地域と「横に繋がる」ことを大切に活動し続けてきたことで、教育委員会や学校などの行政や、各関係機関との連携が強くなり、学習サポートは今年度より町内の学校は出席扱いとして認めていただいている。地域の中にも、食材寄付や学習ボランティアなどで多くの協力の輪があり、「地域みんなで子どもたちを見守り育てる」ネットワークが構築されつつある。

ポイント

- ・地域と「横に繋がる」ことをとにかく大切に活動を続ける。
- ・子育て世代の方が安心して利用してもらえるよう、「いつでも誰でも」利用しやすい環境設定
- ・行政や社会福祉協議会、各企業などとの連携
- ・地域の多世代の方の経験や知識を生かせる場を作る
- ・ボランティアの方との連携やミーティングの実施
- ・安心安全に食事や居場所が提供できるよう、各種保険の加入
- ・運営資金確保のための寄付集めや助成金の利用

団体名	特定非営利活動法人 Hug (松川町)
連絡先	0265-48-0895
メール	kodomocafehug@gmail.com
ホームページ	
	https://www.facebook.com/kodomocafeHu

木曽の観光地域づくり（東山公園環境整備事業） （三留野地域振興協議会）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

南木曽町内三留野地域の地域振興の発展に関する調査研究をし、町及び関係機関と連携し、地域の発展及び地域住民が安心して生活できる環境を作り、地域振興に寄与する活動を行っている。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H29	石碑の修復、案内看板の設置	457 千円
H30	支障木伐採、危険防止対策、案内標柱設置、観光パンフレット作成	2,386 千円
R2	修景整備、植栽、木名板の設置、危険防止対策、注意喚起看板の設置	2,670 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

公園内の支障木伐採や花木の植栽により、修景整備を実施。併せて公園内に注意喚起看板や樹名板を設置し、多くの利用者が公園を安全に楽しめる環境の整備を実施した。

大きな整備事業は終了したため、今後は、植栽した花木を維持し、周辺に存在する他の観光資源（中山道、三留野宿、等覚寺の円空仏等）と結び付けて、地域としての観光コンテンツの向上を図りたい。



【植樹の様子】

取組の効果

地域住民の協力を得て、公園の環境整備及び植栽を実施し、公園の景観が向上した。

また、公園内に注意喚起看板や樹名板を設置することにより、公園散策の楽しみが増し、自然を満喫することができる山林公園としての価値が向上した。

ポイント

これからも長く続けていく（一過性で終わらせない）活動にするため、地元の方が中心となって活動していく組織づくり（東山公園保存会を設立していただいたこと）が、複数年に渡る活動の継続において非常に有効だったと感じています。

活動当初、東山公園は地域の人でもあまり知られていない（登ったことのない）場所でしたが、地域や地元の学校児童等を巻き込みつつ地道に複数年活動を続けることで、こちらの信念や熱意が地域の方に伝わると徐々に認知度も深まっていき、自然と地元からの協力を得られるようになりました。

三留野地域振興協議会
事務局（南木曽町役場内）
電 話：0264-57-2001
F A X：0264-57-2270

安曇野産ホップ生産と麦芽栽培による遊休荒廃農地活用事業 (安曇野産ホップを生産する会)

団体紹介 (私たちが目指しているもの)

ビールの原料となるホップや大麦の栽培復活・名産化を目指し、遊休荒廃農地の解消と生産会員の増加を目的として、生産者育成、圃場の基盤整備と試験栽培を実施している。

また、安曇野産原材料 100%ビールの委託醸造を行い、安曇野名産の新たな農産物・商品として、安曇野市の農業・観光に貢献するために活動を行っている。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H28	圃場の基盤整備・ホップ・二条大麦の試験栽培の実施	1,593 千円
H29	生産の拡大・ホップ棚の見学を兼ねた収穫祭の実施 栽培面積の拡大	406 千円
H30	ホップ・二条大麦の栽培 収穫体験会や地ビール祭りの開催 先進事例地の視察 (岩手県遠野市)	797 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

ビールの原材料となるホップを身近に感じてもらえるように、栽培期間中に農業体験会を実施。

- ・春先にはホップという作物を知ってもらうため、ホップの地下茎整理 (株開き・株揃え作業) を行う。
- ・収穫時期にはホップ収穫体験を行い、実際ホップの付き方や蔓の高さ、ビール以外でのホップの使用方法などを知ってもらう。

今後は、ホップの利用をビールだけではなく料理やアロマとしての使用などに拡大し、安曇野産ホップを新たな安曇野名産の農産物としていきたい。



【ホップ収穫体験】

取組の効果

国産ホップの需要がクラフトビール業界にも注目されてきており、地元のビール会社だけでなく、県内のビール醸造所にも出荷できるようになった。

また、当初の目的でもあった、安曇野産原材料 100%ビールが、委託醸造ではあるが、「安曇野エール」として販売できた。

ポイント

50 年前まで安曇野でも栽培されていたホップ栽培を復活させ、安曇野版ホップ栽培技術も確立しつつあり、年々収量も増加している。

栽培には手作業が多く人手も必要なため、会員以外のクラフトビールファンによる作業ボランティアの方々にも参加していただき、農作業交流が持てるように考えたイベントを行うことを考えた。



【安曇野産原材料 100%ビール
「安曇野エール」】

団体名 安曇野産ホップを生産する会
(安曇野市)

代表：斉藤 岳雄

E-mail: azuminohop@gmail.com

「花ごはん」で楽しむ白馬 Alps 花三昧 (2018~2020)

(エディブルフラワーを活用したグリーン期の観光地魅力づくり)

(女性のアイデアで地域を元気にする)

(団体名 白馬 Women's Club)

団体紹介 (私たちが目指しているもの)

当団体は、「白馬を世界一魅力的な村にする」をスローガンに、女性の豊かな感性と自由な発想から白馬村の観光振興と地域経済活性化に寄与すること、併せて誰もが心豊かに住みやすい村となることを目的として、2017年に地元の女性で設立した団体である。本事業は、昔から「花の白馬と八方尾根」に代弁されてきた白馬村の夏の観光を、「花」(エディブルフラワー)をツールとして「おもてなし」を強化し、白馬 Alps 花三昧を中心とした期間の観光客増を目指すとともに、女性の活躍と元気な地域づくりを目的としている。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H30	花ごはんレシピづくり及び発表会 (白馬 2カ所、東京 GINZA)、エディブルフラワー講習会、インスタグラム講習会、フライヤー等 PR グッズ製作等、村内各種イベント協力	1350 千円
R 元	花ごはん第2弾料理&スイーツレシピづくり及び発表会 (村内会場)、エディブルフラワー講習会、花ごはん参加事業者マップ化、フライヤー等製作、特産品開発研究、各種事業への協力 (花博、村イベントなど) 等	1388 千円
R2	特産品として「花ロール」の利用促進のためのカフェパーティー開催、販売事業者の開拓、村観光局と連携したWeb発信、PRグッズ (フライヤー等) の製作、ふるさと納税への活用開始、雑誌等への観光に関する取材協力等	741 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

(最近の活動内容)

- ・白馬花ロールの販売 (取扱い事業者…道の駅、村内の宿泊施設、飲食店、観光関連事業者など)

- ・ふるさと納税返礼品としての白馬花ロール提供

(今後の事業展開)

- ・白馬花ロールを特産品としてさらに利用いただけるように改良も念頭にしながら、各事業者に継続的な活用を促す。

- ・当団体としては、花ごはん事業に限らず、今後も観光や地域を元気づけるための活動をしていきたいと考えている。



【スノーピーク白馬での販売の様子】

取組の効果

- ・「花ごはん」提供に関しては、現在、地域全体での取り組みは終了しているが、提供が可能な各観光関連事業者 (宿泊施設、飲食店等) においては、独自に取り組みを継続していただいている。

- ・花ロール取扱い事業者…12事業者となり、白馬のお土産品としての認知、利用につながっている。

- ・ふるさと納税返礼品…継続的なご利用があり、白馬のPRにつながっている。

- ・観光局のWebサイトにバナーを置いてもらい、連携して白馬村のPRにつなげている。

- ・花ロールに使用するエディブルフラワーやホオズキジャムは、村内や近隣地域の女性団体と連携を保ち、その団体の生産物を継続的に使用している。

ポイント

- ・コロナ禍で事業活動は非常に制限されたが、会員間で情報や意見交換の機会を設け、現状のみならず、次の活動に向けたプレスト的な話し合いもしている。また、何か課題がみられたときには、その大小に関わらず、スピード感を持って話し合いの場を設けている。(グループLINEを含む)

- ・花ロール取扱い事業者や、観光局、生産団体等、関連する事業者へは、会員が直接に顔を出し連携を保つようにしている。

- ・花ロールの販売によって、会の活動資金にしている。

(団体名) 白馬 Women's Club

(連絡先) 0261-72-7111

白馬ラネージュ東館 内

(担当 塩島)

箱膳を活用した食育推進事業（和食伝承事業） （信州ひらがな料理普及隊）

団体紹介（私たちが目指しているもの）

健全な食と農の関係づくりを目指して「信州ひらがな料理普及隊」を結成し活動を開始。信州の和食・郷土食が子供たちに伝わっていない危機感から料理教室からスタートした。

食の持つ役割はレシピを覚えることや栄養を取るだけでなく、作法や感謝、ふるさとの大切さも伝えたい。さらに、お米を食の中心に据える「瑞穂の国の風土」にも触れる。（総称して「食べごと」と呼ぶ。）「このまま灰になるわけにはいかない」そんな想いを箱膳にのせて子供たちに伝えている。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H30 年度	箱膳を活用した食育推進事業 日本人の食に向かう「作法」「行事」「自給」の考えを楽しみながら次世代に引き継ぐため、箱膳という和食の食事スタイルに着目、箱膳体験を開催し、児童生徒や一般の方にも理解できるよう、各々に応じた学習用パンフレットを作成し、新しい信州らしいライフスタイルを提案する事業。	785 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

- ・密を避けて参加 10 団体が持ち回りで自主研修会を開催し、会員の質の向上を図っている。
- ・信濃毎日新聞こども記者クラブの子どもたちに箱膳体験を行ない、食べ物や平和の大切さを伝えた。
- ・8月14日信毎紙面に「戦争中の食事 味わい 考えた」と一面記事として紹介され、広く県民に訴えた。
- ・1年をかけて活動の記録誌に挑戦し「箱膳に想いをのせて」（140 ページ）が完成し、活動の継続の力になっている。



【記録誌 箱膳に想いをのせて】

取組の効果

自主研修会に新たに学びたいと参加希望者が増えている。活動の記録誌づくりは感想文に終わらず、何をやりたいのか問い詰めることで、結果として人から羨ましがられるものができた。

また、この作業によって活動への誇りと次に何をやるか課題、使命が見えてきたことから、自分史に挑戦する会員もでてきている。



【活動誌づくり編集会議】

ポイント

活動を長く続けるコツは「自分たちの活動に誇りが持てているか」、「他者に刺激を与えているか」の2面がある。県教育委員会元指導主事竹内佳代子先生（栄養教諭）を招いて研修会を企画。活動のエビデンス（根拠）を明らかにするために学識者の知恵も借り、刺激を与え続けることも大事である。

食育の取り組みは、農水省消費安全局が事務局を行っており連携して取り組んでいく。また、本会の活動が評価され、来年度の食育全国大会の審査委員を委嘱されているので全国の情報も共有し、さらに文化庁の食文化継承事業についても着目し、情報を得ていく。

鳥の眼（世界を見る）と虫の眼（足元を見る）を持って活動していきたい。



【活動誌】

信州ひらがな料理普及隊（長野市）
連絡先（事務局：長野県農村文化協会）
担当：相澤 090-5818-6880
メール：aizawa343@hotmail.co.jp

日本遺産 姨捨の棚田と都市との農業交流 (名勝姨捨棚田倶楽部)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

国の名勝「姨捨の棚田」では高齢化による農業担い手不足の問題が表面化しているなかで、千曲市役所職員有志を中心に平成 25 年に新たな棚田保全団体を発足した。日本の原風景である棚田の景観保全を目的に、都市部との交流で地域を活性化し、農業と農村の魅力を市内外に伝えていく。

令和元年度には周辺地域を含め日本遺産に認定され、更に注目されるエリアになることから、今後も様々な取り組みに挑戦していく。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H29	姨捨の棚田 OASIS（交流拠点）プロジェクト 姨捨の棚田一帯における都市と農村との交流を通じた地域活性化を図るため、棚田近くの空き家を改修し、棚田農業体験をはじめとする交流拠点（交流、休憩、農機具、収穫した農産物の保管、加工所）を、改修工事に住民も参加しつつ整備する事業。	5,000 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

H30、31 年度は、農業体験受け入れ事業として長野県短期大学（現長野県立大学）及び信州大学の学生を受け入れ、通年で田植え、草刈り、稲刈り作業等を行った。また、銀座 NAGANO のイベントやフェイスブックを見た県内外の方々の参加もあった。OASIS については、農業体験の参加者が建物の壁塗りや屋根塗装などのワークショップへも参加してくれた。

コロナ禍において、都市部との大規模な交流を断念し、SNS での情報発信や、収穫米の発送などで出来る限りの交流を続けている。都市部との交流事業は、今後の状況をみながら再開していく予定。

今年度は、県内の参加者を中心に米作りと、拠点の改修作業を進めた。減農薬栽培への取り組みや、かつてこの地域で生息していたオオルリシジミ（蝶）の復活を目標にエサとなるクララという植物の保全活動にも新たな会を発足させ積極的に関わっている。また、コロナ終息後の交流会の復活に備え、ワークショップでピザ窯の製作、薪小屋、薪づくり作業なども行った。

今後は、最近市内でも活発化しているワーケーションやテレワーク、田舎暮らしやキャンプブームといった需要にも対応できるようにイベント受け入れなどの取組みを進めていきたい。



【稲刈りイベントの様子】

取組の効果

高齢化が進み、疲弊する地域において、先進的な取組みを次々と展開。比較的若い世代との交流が活発化したことで、新しい可能性が広がっている。農業の苦勞や楽しさを共有でき、担い手不足にも明るい兆しが出始めている。

ポイント

支援金により地域で困っていた空き家を改修し、交流拠点を整備できたことで活動の幅が大きく広がった。ワークショップによる改修作業を通じて長期間の継続した交流や、県内外の学生に農村の課題を体験しながら考えてもらう良い機会になっている。

団体名 名勝姨捨棚田倶楽部（千曲市）
連絡先（事務局） 寺澤孝一、三ツ井雄一
090-3558-1609

信越自然郷エリア“ふるさとサイクリング”推進プロジェクト (信州いいやま観光局)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

信州いいやま観光局は、信越自然郷アクティビティセンターなどを運営し、山岳高原を生かした世界水準の滞在型観光地づくりに取り組んでいる。アクティビティセンターは飯山駅に直結し、2015年の北陸新幹線金沢延伸時に開業した北陸新幹線飯山駅を中心に、半径20km圏域の長野県・新潟県の9市町村に広がる信越自然郷のアウトドアの拠点施設となっている。豊かな自然環境で楽しめるアクティビティを活用して、ウィズコロナ時代の新しい「サイクルツーリズムで地方誘客」の実現を目指している。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
平成29年度	レンタサイクル相互乗り捨てサービスの運用やツアーガイドの育成、WEBページの制作など受入環境の整備	2,509千円

最近の活動内容と今後の事業展開

- ・「信越自然郷 #信越ペダルキャンペーン」(令和2年～)
信越自然郷エリア内の飲食店・体験スポットやサイクリングの様子を参加者自身のSNSで「#信越ペダル」と投稿することで地域内の魅力をシェアできるキャンペーンを実施した。
- ・サイクリングが楽しめる地域
信越自然郷エリア広域での取組として、各地域や観光施設、飲食店などとの情報共有や連携強化をはかり、滞在型ツアー造成やレンタサイクルサービスの充実を図っている。



【分散期間型キャンペーンによる発信】

取組の効果

- ①「#信越ペダルキャンペーン」は、SNSを活用したキャンペーンとして、一度に多くの人が集う一日開催型ではなく、参加期間を5か月間設ける分散期間型で実施したことで、好きなタイミングでの参加が可能となったため、ハッシュタグ投稿が2,000件以上寄せられ、SNS拡散による地域飲食店の紹介、来店促進等の情報発信効果が見られた。
- ②平成29年度からは、信越自然郷エリア内でのサイクリングを盛り上げるため、レンタサイクルの乗り捨てサービスを受入施設9か所から始め、令和3年度現在15か所まで施設を増やすとともに、スポーティな乗り心地が体験できるE-BIKEのレンタルも令和元年度から導入し、利用が前年同月を上回る伸びを見せることも出てきた。
- ③観光地域づくり法人(DMO)の拠点施設としてサイクルツーリズムを推進するために「E-BIKE導入」や「体験会の開催」に積極的に取り組んだことが契機となり、エリア内の観光協会や民間観光施設では、E-BIKEが37台導入されるなど、サイクリング関連の取組が加速している。

ポイント

E-BIKEの活用により、山岳高原という地域の特色を、より魅力あるコンテンツとして提供することを可能にした。DMO拠点施設としてサイクルツーリズムを先導し、体験会や情報発信等の広域観光連携を推進したことで、地域全体でサイクルツーリズムへの意識が高まった。

一社) 信州いいやま観光局 (飯山市)
 連絡先: 信越自然郷アクティビティセンター
 電話: 0269-62-7001
 メール: info@shinetsu-activity.jp
 ホームページ: https://shinetsu-activity.jp/